

3月号 Dream通信

School Aid Japan Cambodia
スクール・エイド・ジャパン・カンボジア

2010. 3. No.24



「夢追う子どもたちの家」 ～健康診断と園内の慶作業～



内科検診中。少し緊張気味の様子です。



初めての視力測定にみんな興味津々です。



歯磨きの方法も指導していただきました。

3月に入り、カンボジアはまさに乾季真っ只中です。日中の温度は35度～38度まで上がってきます。

今回は、そんな酷暑の中行われた、恒例の健康診断についてお伝えいたします。

■年2回の健康診断

園では年に2回、盈進会病院の医師や看護師の方々が、子どもたちの健康診断のために園を訪れてくださいます。

今回は、10人の医師や看護師の方々が、視力測定、歯科検診、内科検診を行っていただきました。

健康診断は今回が初めての子もいて、最初は緊張している表情も見られましたが、盈進会の方々が笑顔で進めてくださったおかげで、園の子どもたち全員、健康診断が終わる頃には、すっかり盈進会の方々と仲良くなっていました。

視力測定は今回初めての試みでした。日本ではおなじみのCマークも、こちらの子どもたちは何の事だかさっぱりわからず、最初は少し混乱していました。

しかし、さすがはカンボジアの子どもたち。測定の仕方がわかると、ほとんどの子が視力1.5以上を出していました。やはり自然の中でたくましく育ってきた園の子どもたちの視力は、日本の子どもたちよりも良いようです。

歯科検診では、何人かの子どもたちに、軽い虫歯が見られました。園では、毎回の食事の後に歯磨きタイムを作っているのですが、どうやら歯の磨き方に少し問題があった様です。歯科の先生から、丁寧に歯磨きの方法を教えていただき、更には歯磨き用の小さな鏡までいただきました。

また、心配をしていた内科検診に関しても、ほとんどの子どもたちに問題は見られませんでした。園のスタッフも盈進会病院の皆様方も、この結果を受けて一安心しました。



脈を取られるのも初めて。緊張しています



育児放棄された卵を取りだし中



子どもたちが植えた空芯菜です



枯れ草をたくさん集めて肥料や覆いに使います

ただ一人、指を曲げるのが痛いという女の子がいました。普段は平気なのに、重いものを持ったり、力を入れたりすると痛いようです。原因を調べてみると、園に来る前のゴミ山での労働に問題がありました。ゴミ山で重いものを持ちすぎたせいで、薬指とそこにつながる腱が痛むようになってしまっていたのです。

幸い今回はリハビリ科の方が同行してくださっており、効果的なマッサージの方法を教えてくださいました。今現在もマッサージを毎日入念に行い、以前よりもケガの状態が良くなってきています。

普段は、元気に遊んでいるので忘れてしまいがちですが、「ここに来た子どもたちは、大変な過去を乗り越えてきた子どもたちだ」ということを改めて痛感した瞬間でした。

■今月の農園

現在園では、去年の12月から今年の1月にかけて植えた野菜の収穫を終え、次の収穫に向けた土作りの時期に入っています。

今季は「区画整理」と「輪作」をテーマとし、今まで特に計測もせず畝(うね)を作っていたのを、きちんと計測して区画割りをすることにしました。常に安定した収穫ができるようにし、作業の動線も考えて区画を作ります。そして区画割りしたうち、6区画をつかって6種類の作物を輪作していき、常に安定した収穫を目指します。

また、最近は、大きな子どもたちに作業リーダーの役割を与え、小さい子どもたちの面倒を見てもらっています。リーダーを任せてもらったことが嬉しいのでしょうか、大きな子どもたちが張り切って作業をしてくれる姿は、園のスタッフから見ても頼もしいものがあります。また、小さい子どもたちもお兄さんお姉さんたちに負けじと、一所懸命働いてくれています。

鶏小屋ではちょっとした事件がありました。なんと、親鶏が子育てを放棄してしまい、卵を温めなくなってしまったのです。このままでは、雛が孵(かえ)ったとしても虫などにたかられて死んでしまいます。数人の子どもからその話を聞き、卵を取り出しに行った時には、すでにアリがたかっている状態でした。たかっているアリを全て取り除き、子どもたちと話し合った結果、子育て放棄をされた卵は、子どもたち全員で育てることに決定しました。今では、卵も無事に孵化し、子どもたちはスポイトをつかって水をあげたり、巣箱をつくって夜冷えないようにしたりと、甲斐甲斐しく世話を焼いています。子どもたちが育てた雛が、立派な鶏になってくれたらと願ってやみません。